

## 家庭科における着装授業

### — 小学校・中学校での学習内容と高等学校での実践を通して —

Wearing Experiences in the coursework of Home Economics.

-Implementation at high school class and researching from teaching guidelines and textbooks at Primary and Junior high school-

岡 松 恵\* 白 倉 小百合\*\*  
OKAMATSU Megumi SHIRAKURA Sayuri

**要約**：本論では小学校、中学校、高等学校の学習指導要領と教科書を用いて、着装授業に関する内容を調査し、高等学校の生徒と家庭科教員に対し、巻衣形の民族服であるカンガ（東アフリカ諸国）とキルト（スコットランド地方）の着装実習を行い、衣生活学習における効果と課題を明らかにした。その結果、着装授業については、小学校では衣服の働きを踏まえて季節気候に合わせた日常着の着方を考える内容であり、中学校ではT.P.O.に合った着方や自分らしい着方といった社会へ繋がる内容であり、高等学校では衣服の働きや和服と洋服の特徴といった小・中学校での学習内容を深めるものであった。また中学校では和服のゆかたの着装授業が勧められており、この着装実習を継続・発展させる意味でも、高等学校における民族服の着装実習の意義が考えられた。また実際に高等学校の生徒や家庭科教員に対し、カンガやキルトの着装実習を行ったところ、生徒の学習意欲を高め、学習内容を深く理解することに効果がみられたが、衣生活内容全体としての時間配分の問題など、今後の課題も明らかになった。

**キーワード**：着装，着装授業，小学校家庭科 中学校家庭科 高等学校家庭科

## I はじめに

文部科学省の「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（中央教育審議会答申2016年12月）で示されたように，近年の教育は，「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に向けた舵取りがなされている<sup>1</sup>。衣生活学習においては，体験的な学習である被服製作実習は，アクティブ・ラーニング型授業の一つに該当する。被服製作実習は，ものをつくる喜びを感じることが出来，衣服に対する理解が深まる。しかし著者らのこれまでの研究<sup>2</sup>で明らかになったように，近年，特に高等学校では，被服製作実習の機会が減少している。このような状況の下で，衣服の理解に繋がるような新たな体験型の授業を提案することは，衣生活学習をより充実させる上でも意味があると考えられる。ところで著者らは2014年から教育学部の大学1年生を中心とした衣生活に関する授業において，東アフリカ諸国で着られているカンガとスコットランドの民族服であるキルトの着装実習を行っている。これらの衣服は，現代の日本人にとって最も馴染みのない巻衣形の衣服で，しかも巻衣の中では着方が容易でバリエーションに富んでいる。また両者ともインターネットの利用で比較的安価に入手できる<sup>3</sup>。この

\* 山梨大学教育学部

\*\* 山梨県立甲府城西高等学校

大学でのカンガやキルトの着装実習は概ね好評であったため、高等学校における衣生活学習の体験型授業の一つとして検討する意義が考えられた。

本論ではまず小・中・高等学校の家庭科での着装授業（着装実習や着装に関する様々な学習）を明らかにするため、現行の学習指導要領と教科書を調査した。さらに山梨県の高等学校の生徒や家庭科教員に対し、カンガとキルトの着装実習を試み、効果や課題を明らかにした。なお衣服などを身に付ける際、「着装」や「着用」、「着方」などの言葉が用いられるが、本論では煩雑さを避けるため、引用の外は「着装」を用いている。

## II 小学校の着装授業

### 1 学習指導要領（平成29年告示）の内容

小学校家庭科では「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」<sup>4</sup>の育成が目標として挙げられている。なお当要領は平成29年3月31日に改定され、令和2年度から全面的に実施されている。衣生活に関する内容は表1<sup>5</sup>に抜粋したように、「(4)衣服の着用と手入れ」と「(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」の2項目から成っている。着装に関しては、表中に太字で示したように「衣服の主な働き」を学習し、それを踏まえて「日常着の快適な着方」を理解することが示されている。また着装の対象は生徒にとって身近な日常着であるが、日本の伝統的な衣生活文化についても気づかせる配慮が示されている。

表1 小学校家庭科 学習指導要領における着装・衣服の形・衣文化などに関連する内容（\*太字は筆者らによる）

B 衣食住の生活
(4) 衣服の着用と手入れ
ア (ア)衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること。
イ 日常着の快適な着方や手入れのしかたを考え、工夫すること。
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
ア (ア)製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。
イ 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。
イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。
(内容の取扱い)
(2) ア <b>日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化に気付くことができるよう配慮すること。</b>
オ (5)については、日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱うこと。
カ・・・暑さ・寒さについては、(住生活と(筆者ら記)) (4)のアの(ア)の日常着の快適な着方と関連を図ること。

### 2 教科書の内容

現行の教科書は東京書籍株式会社（東書）、開隆堂出版株式会社（開隆堂）の2社からそれぞれ1種ずつ発行されている<sup>6</sup>。本節ではそれらから着装に関する内容を抜粋し表2にまとめた。

どちらの教科書も、衣服の働きと着装（着方）が関連付けられて示されており、夏・冬の各季節に応じた日常着の着方を学習する。ここでの衣服の働きとはNo.1の東書に記されているように「保健衛生上の働き」と「生活上の働き」の2つである。保健衛生上の働きでは、夏・冬、雨天時の着方について写真や図をあげ、衣服の形、布の種類、色、着ている枚数などを比較させ、着方を工夫することで季節や天候に対応できることに気づかせる内容となっている。また特に体温調節を助ける衣服内気候のしくみについて学び、体温で暖められた空気を逃がしやすい、あるいは逃がしにく

い着方に、衣服の面積や衿首や袖口などの開口部の形状、布地の風通しなどが関連することを気付かせ、冬は重ね着が効果的であることを学ぶ。また衛生的な着方としては、下着を着用することを例に学ぶ。「生活活動上の働き」については、生活場面や活動に合わせた服装を例示し、活動的で安全な着方を考える内容となっている。以上の「衣服の働き」の内容には、布の性質や着方による違いを調べる実験やデータが示され、科学的な視点も付されている。また夏・冬の暮らしの中で浴衣やじんべえ、半てんが取り上げられており、日本の伝統的な衣生活への興味をいざなうとともに、日常着の着方で学んだ知識を応用できる工夫がなされている。

表2 小学校家庭科 教科書における着装・衣服の形・衣文化などに関連する内容（\*太字は筆者らによる）

No. 教科書（出版社略称『書名』（検定済年月日））	○：衣服の働き □：伝統的な衣生活文化 ◆：被服実験 ●：着装実習 *表題は適宜言い換えや記入（表題のない場合）をしている <：掲載箇所(章や節などの書き方は統一した)
No.1 東書『新しい家庭5・6』（平成31年2月25日検定済）	<p>□<b>ゆかた・じんべえ</b>&lt;11章夏をすずしくさわやかに(1)夏の生活を見つめよう○(資料)夏の伝統的な暮らし方の工夫</p> <p>○<b>衣服の働きと着方</b>（保健衛生上の働き，生活活動上の働き）&lt;11章夏をすずしくさわやかに(2)すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう②快適な着方を考えよう</p> <p>◆<b>布の性質を比べる方法</b>（さわりごこち，水の吸いやすさ，水のかわきやすさ，湿気の通しやすさ，風の通しやすさ，のびやすさ）&lt;11章夏をすずしくさわやかに(2)すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう②快適な着方を考えよう</p> <p>○<b>衣替え</b>&lt;11章夏をすずしくさわやかに(3)手入れをしよう○(日本の伝統)</p> <p>□<b>半てん</b>&lt;14章冬を明るく暖かく(1)冬の生活を見つめよう○(資料)冬の伝統的な暮らし方の工夫</p> <p>○<b>重ね着</b>&lt;14章冬を明るく暖かく(1)冬の生活を見つめよう①暖かい着方を考えよう</p> <p>●<b>暖かく感じる着方の比較</b>（手ぶくろをはめたとき，ポリぶくろを手にはめたとき，衣服をきたとき）&lt;14章冬を明るく暖かく(1)冬の生活を見つめよう①暖かい着方を考えよう</p>
No.2 開隆堂『新編新しい家庭5・6』（平成31年2月25日検定済）	<p>○<b>寒い季節・暑い季節</b>（女子，男子）&lt;生活-9章暖かく快適に過ごす着方，工夫-5章すずしく快適に過ごす着方と手入れ</p> <p>◆<b>布の重なりと保温を比べてみよう</b>（実験）寒い季節・暑い季節&lt;生活-9章暖かく快適に過ごす着方(1)どのような着方が暖かいだろう</p> <p>○<b>重ね着をすると暖かいのはなぜ？</b>&lt;生活-9章暖かく快適に過ごす着方(1)どのゆおうなき方が暖かいだろう</p> <p>○<b>衣服の働き</b>（活動に合った着方，衛生的な着方）&lt;生活-9章暖かく快適に過ごす着方(2)衣服の働きを知ろう</p> <p>◆<b>布ののびやすさの比較</b>（体操着と給食着）&lt;生活-9章暖かく快適に過ごす着方(2)衣服の働きを知ろう</p> <p>○<b>生活場面や活動による着方の例，野外活動に合う着方を考えよう</b>&lt;生活-9章暖かく快適に過ごす着方(2)衣服の働きを知ろう</p> <p>□<b>ゆかた</b>&lt;工夫-5章すずしく快適に過ごす着方と手入れ（伝統）</p> <p>◆<b>布による空気の通しやすさを比べてみよう，湿気の吸いやすさを比べてみよう</b>（実験）&lt;工夫-5章すずしく快適に過ごす着方と手入れ(1)どのような着方がすずしいのだろう</p> <p>○<b>すずしく快適な着方の工夫例</b>&lt;工夫-5章すずしく快適に過ごす着方と手入れ(3)快適な衣生活を工夫しよう</p>

### Ⅲ 中学校の着装授業

#### 1 学習指導要領（平成29年告示）の内容

中学校の学習指導要領は「技術・家庭」で構成されている。家庭分野の目標は「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力」<sup>7</sup>の育成である。この目標は小学校家庭科の目標と似通っているが、中学校では新たな生活をつくり出す「創造」という言葉が使われて、将来に目を向けた目標となっている。また技術分野と共に示された目標では、「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて」<sup>8</sup>と、その対象が個人の生活だけでなく、社会へと広がっていることが分かる。なお中学校の学習指導要領は平成29年3月31日に改定され、令和3年度から全面的に実施されている。

表3 中学校家庭科 学習指導要領における着装・衣服の形・衣文化などに関連する内容（\*太字は筆者らによる）

〔家庭分野〕B 衣食住の生活
(4) 衣服の選択と手入れ
ア <b>(ア)衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。</b>
(イ)衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。
イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。
イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。
(内容の取扱い)
(2) <b>ア 日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化を継承する大切さに気付くことができるよう配慮すること。</b>
カ (4)のアの(ア)については、 <b>日本の伝統的な衣服である和服について触れること。また、和服の基本的な着装を扱うこともできること。</b> さらに、既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱うこと。(イ)については、日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱うこと。
キ (5)のアについては、衣服等の再利用の方法についても触れること。

衣生活の内容は表3<sup>9</sup>に抜粋したように、「(4)衣服の選択と手入れ」と「(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」の2項目から成っている。着装に関しては太字で示したように、社会生活を営む上での衣服の働きを学び、それを踏まえて目的に応じた着装や個性を生かす着装などを学習する。また日本の伝統的な衣服である和服について触れ、基本的な着装を扱うことも考えられている。

#### 2 教科書の内容

現行の教科書は東書、開隆堂に加え、教育図書株式会社（教育）の3社からそれぞれ1種ずつ発行されている<sup>10</sup>。本節では小学校と同様に着装に関連する内容を抜粋し、表4にまとめた。

着装に関する内容は学習指導要領で示されたように、まず「衣服の働き」のうち「社会生活上の働き」を中心に「T.P.O.」や「コーディネート」、「環境」を考えた着方を学ぶ。また小学校では触れる程度であった浴衣（長着）について、洋服（ジャケットとスラックス）との形の違いや、浴衣の着方とたたみ方、日本の文様などが学習内容となっており、小学校からの内容の発展がみられた。また浴衣以外の和服についてもライフステージに合わせた和服や、和服のT.P.O.として様々な和服が図や写真で示されており、偏った内容にならないような工夫がみられた。さらに世界の民族衣装に

## 家庭科における着装授業

ついても様々な形や着方に注目した紹介がなされている。

表4 中学校家庭科 教科書における着装・衣服の形・衣文化などに関連する内容（\*太字は筆者らによる）

No.	教科書（出版社略称『書名』（検定済年月日））	○：衣服の働き □：伝統的な生活文化 ●：着装体験 *表題は適宜言い換えや記入（表題のない場合）をしている <：掲載箇所(章や節などの書き方は統一した)
		○衣服の働き（保健衛生上や生活活動上の働き，社会生活上の働き）<2章私たちの衣生活(1)衣服の選択と手入れ ○T.P.O. <2章私たちの衣生活(1)衣服の選択と手入れ
No.1	東書『新しい技術・家庭分野自立と共生を目指して』（令和2年2月10日検定済）	○環境に配慮した着方（涼しい着方と暖かい着方）<2章私たちの衣生活(1)衣服の選択と手入れ ○衣服で変わる印象（個性を生かす服装）<2章私たちの衣生活(2)私らしさとT.P.O. ●自分似合う色を調べよう<2章私たちの衣生活(2)私らしさとT.P.O. ○コーディネート<2章私たちの衣生活(2)私らしさとT.P.O. □和服の文化・T.P.O.・文様，地域に伝わる衣の文化 <2章私たちの衣生活(3)日本の衣文化 □和服と洋服の構成<2章私たちの衣生活(3)日本の衣文化 □和服のたたみ方<2章私たちの衣生活(3)日本の衣文化 ●浴衣を着てみよう<2章私たちの衣生活(3)日本の衣文化 ○世界の民族衣装（ゴ(ブータン)，サリー(インド)，ペルー(ポンチョ)，キルト(イギリス)，ポンチョ(ペルー)) <2章私たちの衣生活(3)日本の衣文化
No.2	教育『New技術・家庭分野くらしを創造する』（令和2年2月10日検定済）	○浴衣・じんべえ<4章私たちの衣生活口絵 ○衣服の働き（保健衛生上の働き，生活活動上の働き，社会生活上の働き）<4章私たちの衣生活(1)衣生活の働きを知ろう ○T.P.O. <4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう①衣服のT.P.O. ○コーディネート（色，柄，えりの形，パンツの形）<4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう②衣服のコーディネート ○着方による印象の違い<4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう②衣服のコーディネート ○ゆかた，部分名称<4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう③和服 ●ゆかたを自分で着てみよう<4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう③和服 ○ゆかたのたたみ方<4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう③和服 ○和服のT.P.O. <4章私たちの衣生活(2)目的に合わせて自分らしく着よう③和服 ○立体構成，平面構成（ジャケット，ゆかた）<5章生活を豊かにする製作(1)布を使ってつくってみよう(資料) □世界の民族衣装（サルデーニャ島の民族衣装(イタリア)，チマチョゴリ(韓国)，マサイシユカ(ケニア)，サリー(インド)，ペルー(ポンチョ)，イヌイットの毛皮(カナダ)) <世界の衣食住(発展)
No.3	開隆堂『技術・家庭[家庭分野]生活の土台自立と共生』（令和2年2月10日検定済）	□日本の文様<2章衣生活口絵 ○衣服を着る目的（保健衛生上の働き，生活活動上の働き，社会生活上の働き）<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択①衣服で伝わるメッセージ ○T.P.O. <2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択①衣服で伝わるメッセージ ○コーディネート<2章衣生活(2)自分らしくコーディネート<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択②自分らしくコーディネート ●カラーコーディネート<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択②自分らしくコーディネート ○個性<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択②自分らしくコーディネート ○ユニバーサルファッション<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択②自分らしくコーディネート ○色・デザイン・柄が与える印象<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択②自分らしくコーディネート □和服のT.P.O.，いろいろな和服（相撲の行司，能など）<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択③つなげよう和服の文化 □民族衣装（着物に似たブータンの衣服）<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択③つなげよう和服の文化 ○平面構成，立体構成<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択③つなげよう和服の文化 □和服はエコ<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択③つなげよう和服の文化 ●ゆかたを着てみよう<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択③つなげよう和服の文化 □ゆかたのたたみ方<2章衣生活(1)目的に応じた衣服の選択③つなげよう和服の文化 ○省エネルギーにつながる着方（寒いとき，暑いとき）<2章衣生活(4)持続可能な衣生活

## IV 高等学校の着装授業

高等学校の学習指導要領は平成30年3月30日に改定され，令和4年度から年次進行で実施される

ことになっており、家庭科の教科書も同年に出版されることになっている。したがって本論では現行の学習指導要領（平成21年度告示）とこれに対応する現行の教科書を用いた分析を行う。

## 1 学習指導要領（平成21年告示）の内容

高等学校の家庭科においては、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割や、生活に必要な衣・食・住・保育・消費の知識技術を習得するとともに、課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成が重視されている<sup>11</sup>。高等学校での家庭科は表5に示したように、共通教科と専門教科があり、共通教科は「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」の3科目が、専門教科は20科目が開設されている。なお普通教育においては家庭基礎2単位、家庭総合4単位、生活デザイン4単位の内から1科目を選択履修することになっている。

表5 高等学校家庭科 学習指導要領における着装・衣服の形・衣文化などに関連する内容（\*太字は筆者らによる）

	(2) 生活の自立及び消費と環境 イ被服管理と着装： <b>被服管理に必要な被服材料，被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着装を工夫し，健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。</b> (内容の取扱い) 内容の(2)については、実験・実習を中心とした指導を行うよう留意すること。
共通教科	(4) 生活の科学と環境 イ <b>衣生活の科学と文化</b> ： <b>着装，被服材料，被服の構成，被服製作，被服管理などについて科学的に理解させ，衣生活の文化に関心をもたせるとともに，必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し，主体的に衣生活を営むことができるようにする。</b> (内容の取扱い) (1)-イ内容の(4)については、実験・実習を中心とした指導を行うよう留意すること。 (2)-ウ内容の(4)のイの被服製作については、衣服を中心として扱い、生徒の技術や興味・関心に応じて縫製技術ができる題材を選択させること。エについては、生活と環境について具体的に理解させることに重点を置くこと。
3 生活デザイン	(4) 衣生活の設計と創造 <b>被服の着装，製作，管理などの衣生活に関する知識と技術を習得させ，衣文化に関心をもたせるとともに，生涯を通して快適で創造的な衣生活を主体的に営むことができるようにする。</b> ア装いの科学と表現 被服の機能を科学的に理解させ，目的に応じた被服の選択や自己を表現する着装を工夫できるようにする。 イ被服の構成と製作
	(衣生活に関連する科目)
9 服飾文化	(1) 服飾の変遷と文化 (2) <b>着装</b> (3) <b>服飾文化の伝承と創造</b>
10 ファッション造形基礎	(1) 被服の構成 (2) 被服材料 (3) 洋服製作の基礎 (4) 和服製作の基礎
11 ファッション造形	(1) ファッション造形の要素 (2) 洋服製作 (3) 和服製作
12 ファッションデザイン	(1) ファッションデザインの基礎 (2) ファッションデザインの発想と表現法 (3) ファッションデザインと流行 (4) ファッション産業
13 服飾手芸	(1) 手芸の種類と特徴 (2) 手芸の変遷 (3) 服飾材料としての各種手芸の技法 (4) 手芸品の製作
	(衣生活に関連しない科目)

着装に関わる内容を表5に太字で示した。共通教科の「家庭基礎」では目的に応じた着装の工夫が示されており、「家庭総合」では着装に対する科学的な理解を踏まえて衣生活文化に対する関心を持たせることが示されている。また「生活デザイン」では被服の着装や製作などに関する知識や技術の習得が示され、衣文化に関心を持たせることが示されている。また専門教科においては、特に「服飾文化」に着装の項目がみられた。なお「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」の内容の取扱いには「実験・実習を中心とした指導を行うよう留意すること」という指針が示されている。

# 家庭科における着装授業

## 2 教科書の内容

表6 高等学校家庭科 教科書における着装・衣服の形・衣文化などに関連する内容（\*太字は筆者らによる）

No. 科目	○：衣服の形や民族服 ●：着装実習 * 表題は適宜言い換えや記入（表題のない場合）をしている <：掲載箇所(章や節などの書き方は統一した)
No.1 家庭基礎 東書『家庭基礎 自立・共生・創造』（平成28年3月3日検定）	○世界の民族衣装（高温で乾燥した地域、寒冷な地域、温暖な地域）<6章衣生活をつくる(1)被服の役割を考える③被服の役割 ○着物のたたみ方<6章衣生活をつくる(5)布を用いた生活の知恵
No.2 家庭基礎 教団『家庭基礎 ともに生きる明日をつくる』（平成24年3月9日検定）	○布を大切に使い続けるくふう（日本、裂織）<2章衣生活(2)衣服の成り立ちと性質を考えよう①衣服の材料を見てみよう ○平面構成（ゆかた）立体的構成（ジャケット）<2章衣生活(2)衣服の成り立ちと性質を考えよう②衣服のつくりを見てみよう ●1枚の布を身にとってみよう<2章衣生活(2)衣服の成り立ちと性質を考えよう②衣服のつくりを見てみよう
No.3 家庭基礎 教団『最新 家庭基礎 生活を科学する』（平成24年3月9日検定）	○世界の民族衣装（サリー(インド)、ゴ(ブータン)、小紋(日本)、ジレ、エプロン(オランダ)、ボンチョ(チリ)、アノラック(イヌイット)) <口絵世界の衣食住を見てみよう ○立体的構成と平面構成（ジャケット、ゆかた）
No.4 家庭基礎 教団『新家庭基礎 今を学び未来を描き暮らしをつくる』（平成28年3月3日検定）	○装飾的な衣服の例<5章衣生活(1)なぜ服を着るの?(コラム)衣服を着るようになったのはなぜ? ○構成の違いによる特徴、立体的構成（ジャケット）平面構成（ゆかた）<5章衣生活(2)私たちが着ているもの②衣服の構成
No.5 家庭基礎 教団『高等学校家庭基礎 グローバル&サステナビリティ』（平成28年3月3日検定）	○日本や世界のさまざまな地域の衣生活文化について調べてみよう（樹皮衣(北海道アイヌ)、魚皮衣(サハリンアイヌ)) <2章衣生活と自立(2)衣服を着る①着ることの意味 ○世界のドレスコード（ゴ、キラ(ブータン国王夫妻)）(2)衣服を着る③社会の中で着る ○立体的構成と平面構成、洋服と和服を比べてみると（ジャケットとゆかた）<2章衣生活と自立(3)衣服の成り立ち③衣服の構成
No.6 家庭基礎 実教『新家庭基礎 パートナシップでつくる未来』（平成28年3月3日検定）	○衣服の起源（カナダ）<2章衣生活をつくる(1)人と衣服のかかわり①人と衣服のかかわり ○立体的構成（洋服）と平面構成の特徴（和服）、窄衣形、寛衣形<2章衣生活をつくる(1)人と衣服のかかわり⑥衣服の形・デザイン
No.7 家庭基礎 実教『新家庭基礎21』（平成28年3月3日検定）	なし
No.8 家庭基礎 実教『新国説 家庭基礎』（平成28年3月3日検定）	○地域によって異なる衣服の特徴（カナダ、ブルガリア、カタール）<2章衣生活をつくる(1)人と衣服のかかわり①人と衣服のかかわり
No.9 家庭基礎 開隆堂『家庭基礎 明日の生活を築く』（平成28年3月3日検定）	なし
No.10 家庭基礎 大修館『新家庭基礎 主体的に人生をつくる』（平成28年3月3日検定）	○民族服（ジレ、エプロン(オランダ)、サリー(インド)、腰に布をまきつける腰布型(ケニア)、和服(日本)、アノラック(イヌイット)、ボンチョ(ペルー)) <8章健康で快適な衣生活をつくらう口絵 ○平面構成（ゆかた）立体的構成（ジャケット）<8章健康で快適な衣生活をつくらう(2)着ごこちの良い被服③被服の形
No.11 家庭基礎 大修館『未来をつくる 新高校家庭基礎』（平成28年3月3日検定）	○民族服（ジレ、エプロン(オランダ)、サリー(インド)、腰に布をまきつける腰布型(ケニア)、和服(日本)、アノラック(イヌイット)、ボンチョ(ペルー)) <8章健康で快適な衣生活をつくらう口絵 ○平面構成（ゆかた）立体的構成（ジャケット）<8章健康で快適な衣生活をつくらう(3)着ごこちの良い被服
No.12 家庭基礎 第一『高等学校 新版 家庭基礎 ともに生きる・持続可能な未来をつくる』（平成28年3月3日検定）	○民族服（サリー(インド)、ケンテ(ガーナ)、チマ(韓国)、ドーティ（インド）、ウィビル(グアテマラ)、村や地方ごとに違う民族衣装(ルーマニア)、サラファン(ロシア)、キルト（イギリス）レーダーホーゼン(オーストリア)、腰みをつけた子どもたち(バヌアツ・タンナ島)<6章装う口絵 ○世界の民族服（サリー(インド)、ボンチョ(ペルー)、ゴ（ブータン）、ブラウス、ベスト、スカート、エプロンの組み合わせ（ポーランド）、イヌイットのアノラック（北カナダ））<6章装う(1)人の一生と被服①人と被服 ●浴衣の着方<6章装う(1)人の一生と被服②多様な被服
No.13 家庭総合 東書『家庭総合 自立・共生・創造』（平成28年3月3日検定）	○世界の民族衣装（高温で乾燥した地域、寒冷な地域、温暖な地域）<7章衣生活をつくる(1)被服の役割を考える③被服の役割 ○平面構成と立体的構成の違い（和服とバジヤマ）<7章衣生活をつくる(4)被服をつくる①被服の構成
No.14 家庭総合 教団『家庭総合 ともに生きる明日をつくる』（平成24年3月9日検定）	○世界の民族衣装（サリー(インド)、ゴ(ブータン)、小紋(日本)、ジレ、エプロン(オランダ)、ボンチョ(チリ)、アノラック(イヌイット)) <口絵世界の衣食住を見てみよう ○布を大切に使い続けるくふう（日本、裂織）<7章衣生活(2)衣服の成り立ちと性質を考えよう①衣服の材料を見てみよう ○平面構成（ゆかた）立体的構成（ジャケット）<7章衣生活(2)衣服の成り立ちと性質を考えよう②衣服のつくりを見てみよう ●1枚の布を身にとってみよう<7章衣生活(2)衣服の成り立ちと性質を考えよう②衣服のつくりを見てみよう ○民族衣装、日本の民族衣装（和服）（沖縄、アイヌ）和服各部の名称と慣用表現<7章衣生活(5)日本の伝統的な衣服とは?①暮らしに根づいた伝統的な衣生活
No.15 家庭総合 教団『新家庭総合 今を学び未来を描き暮らしをつくる』（平成28年3月3日検定）	○装飾的な衣服の例<6章衣生活(1)衣服の機能(コラム)衣服を着るようになったのはなぜ? ○構成の違いによる特徴、立体的構成（ジャケット）平面構成（ゆかた）<6章衣生活(2)衣服を入手しよう③衣服の構成 ○日本の伝統的な衣服（アイヌの伝統衣装、沖縄の伝統衣装、加賀友禅の着物）和服各部の名称と慣用表現<6章衣生活・日本の伝統的な衣服
No.16 家庭総合 実教『新家庭総合 パートナシップでつくる未来』（平成28年3月3日検定）	○懸衣形の衣服（インド、ガーナ(巻衣)、タイ、エジプト(貫頭衣)、日本(寛衣)、洋服(窄衣)) <2章衣生活をつくる口絵 ○衣服の起源（カナダ）<2章衣生活をつくる(1)人と衣服のかかわり①人と衣服のかかわり ○立体的構成（洋服）と平面構成の特徴（和服）、窄衣形、寛衣形<2章衣生活をつくる(7)衣服をつくらう①衣服の形・デザイン
No.17 家庭総合 開隆堂『家庭総合 明日の生活を築く』（平成28年3月3日検定）	○世界の民族衣装と着装型（貫頭型、掛布型、腰布型、体型型、前開型）<2章着る(1)人間と被服②世界にはなぜ色々な衣服があるの? ○立体的構成、平面構成（平面構成の衣服と展開図、カンガの着装）<2章着る(5)被服をつくる②衣服の構成を知ろう
No.18 家庭総合 大修館『新家庭総合 主体的に人生をつくる』（平成28年3月3日検定）	○民族服（ジレ、エプロン(オランダ)、サリー(インド)、腰に布をまきつける腰布型(ケニア)、和服(日本)、アノラック(イヌイット)、ボンチョ(ペルー)) <8章健康で快適な衣生活をつくらう口絵 ○平面構成（ゆかた）立体的構成（ジャケット）<8章健康で快適な衣生活をつくらう(2)着ごこちの良い被服③被服の形
No.19 家庭総合 第一『高等学校 新版 家庭総合 ともに生きる・持続可能な未来をつくる』（平成28年3月3日検定）	○民族服（サリー(インド)、ケンテ(ガーナ)、チマ(韓国)、ドーティ（インド）、ウィビル(グアテマラ)、村や地方ごとに違う民族衣装(ルーマニア)、サラファン(ロシア)、キルト（イギリス）レーダーホーゼン(オーストリア)、腰みをつけた子どもたち(バヌアツ・タンナ島)<7章装う口絵 ○世界の民族服（サリー(インド)、ボンチョ(ペルー)、ゴ（ブータン）、ブラウス、ベスト、スカート、エプロンの組み合わせ（ポーランド）、イヌイットのアノラック（北カナダ））<7章装う(1)人の一生と被服①人と被服 ○布の裁断（直線裁ち）・和服（長着）のたたみ方（本たたみ）<7章装う(1)人の一生と被服②日本の衣文化 ●浴衣を着てみよう<7章装う(1)人の一生と被服③多様な被服
No.20 生活デザイン 実教『生活デザイン』（平成25年2月13日検定）	○懸衣形の衣服（インド、ガーナ(巻衣)、タイ、エジプト(貫頭衣)、日本(寛衣)、洋服(窄衣)) <3章衣生活をつくる口絵 ○着るを考える（ダニ族、イヌイット、イラン、消防服、歌舞伎衣装、スカート男子）<3章衣生活をつくる(1)衣服の機能 ○立体的構成（洋服）と平面構成の特徴（和服）、窄衣形、寛衣形<3章衣生活をつくる(5)衣服をつくらう①衣服の形・デザイン

これまでの小・中学校の学習指導要領および教科書の分析から、着装に関する内容は、「衣服の働き」についての学習を踏まえたものであり、さらに日常着の着装から伝統的な和服（浴衣）の着装へと、対象の広がりが見られた。本論では「はじめに」で記したように、他国の民族服であるカンガやキルトの着装実習を目的としているため、現行の高等学校の家庭科の教科書20冊（家庭基礎12

冊，家庭総合7冊，生活デザイン1冊）から特に着装実習に関わる内容として，日本の和服や他国の民族服に関連する内容を抜き出した。またカンガやキルトが巻衣形の衣服に分類され，窄衣形の洋服（ジャケットなど）や寛衣形の和服（浴衣など）とは異なるため，衣服の形についても取り上げることにし，表6にまとめた。

衣服の形に関する学習内容は①平面構成と立体構成の考え方と，②懸衣形（巻衣，貫頭衣），寛衣形，窄衣形，といった分類とがみられた。①は中学校においても和服と洋服の違いを説明する際に用いられていた考え方で，高等学校においては，被服製作をする上でどのような違いが生じるのかなどの，より具体的な内容となっていた。さらに，①の平面構成と立体構成が②の分類ではどの形に属するかを説明したのもみられた。なお平面構成の衣服は懸衣形や寛衣形に，立体構成の衣服は窄衣形に分類される。②については，世界の民族服が気候風土や歴史文化に関連していることが説明されており，小学校での衣服の保健衛生上の働きに繋がることが考えられた。また注目すべきは●で示したように，本論で用いるカンガやキルトと同様の「一枚の布の着付け」の実践が提案されていることである。この他に衣服の形については，歴史的な服装を取り上げそのシルエットが学習内容に追加されている場合もあり，歴史的にも地域的にも広範囲に視野を向けたものとなっていた。

### 3 授業実践

#### （1）高等学校教員への実践

平成30(2018)年7月，山梨県教育センターにおいてカンガとキルトの着装実習を実施した。参加者は高等学校の家庭科教員12名であった。講義では衣服の形による分類（懸衣形（巻衣・貫頭衣），寛衣形，窄衣形）とそれぞれの着方（YouTubeの動画視聴<sup>12</sup>）に30分弱使い，その後カンガとキルトの着装を40分程度行った。



図1 カンガ

カンガ（図1）は，タンザニアやケニアで用いられている巻衣で，縦110cm（布幅），横150cm程の平織木綿の一枚布である。単色あるいは数色で，ハンカチやスカーフを彷彿とさせる額縁風の模様がプリントされており，よく見れば額縁柄の中側にスワヒリ語でことわざのようなメッセージが書かれている。織本知英子氏によると<sup>13</sup>，カンガの着方は自由に布の角を捻ったり結んだりして体に巻き付ける。時には風呂敷のようにも使われる。また現地では同じ柄二枚分が繋がったまま売られており，同柄二枚で着付けるのが一般的であり，またカンガを選ぶ際には，スワヒリ語のメッセージの内容が重要視されるようである。

一方キルトは，タータンと呼ばれるチェック布を用いたスコットランドの民族服として知られているが，本来はスコットランド北部のハイランド地方で織られた綾織りのウール布（タータン）を用いた大型の一枚布（約180cm×550cm，「ブラッド」と呼ばれる）の巻衣を示す<sup>14</sup>。講習では男性用の着装を行った。着方は動画や奥田実紀氏の著書を参考に次のように行った。まずブラッドを地面に広げ，長辺の左右を腰幅分残してそれ以外をプリーツに折り，おおよそベルトの長さ程度にする。この時チェック柄を利用して，プリーツの表面が同じ色柄になるように重ねていくと簡単に畳める。次にプリーツに折り畳んだ布下にベルトをくぐらせてから布の上に腰を下ろし，膝下が布より外に出るように寝転ぶ。左右の布を腹上に重ねてベルトしめ，立ち上がれば前面は重ねた布，背面がプリーツのキルトが出現する。ベルトの上に被さった布は背面にまわしたり，片側の肩の上にピンで留めたり，あるいはフードのように頭から被ったりする。



## 家庭科における着装授業

両者の着装後、カンガのメッセージをインターネット翻訳で調べた。また参考文献を紹介し、それぞれの衣服の生まれた風土や歴史文化について意見交換し、アンケートを実施した。アンケートは参加者12名全員が回答し、自由記述内容を整理した（表7-1、7-2）。

表7-1 高等学校家庭科教員による感想 「カンガ、キルトの着装授業の感想」

項目	人数	キーワード
民族服の理解	9	一枚の布の可能性、人間の体型との関連、気候風土・歴史文化による相違点
着装体験の楽しさ	5	楽しかった、ワクワクした、面白かった
異文化への興味と理解	4	民族文化の多様性と同調性
日本の衣文化との比較	3	帯との違い、風呂敷との違い
着装授業の良さ	2	実物に触れる機会
日常生活への活用	1	育児用品や災害・避難用品への活用

表7-2 高等学校家庭科教員による感想 「カンガ・キルトの着装授業の長所と短所」

項目	人数	キーワード
(長所)		
衣生活学習への興味と理解	9	実感を持たせた、衣文化・異文化の理解、知識の定着、服飾文化への導入
生徒の能力の開発	7	表現力、判断力、読解力、発想力、コミュニケーション力
アクティブラーニング	2	グループワーク、アクティブラーニング
(短所)		
教材準備の負担	9	人数分のカンガ・キルトの準備
時間の制約	5	家庭科教科内での時間配分の難しさ、準備に時間が必要
生徒対応が困難	3	生徒が騒がしくなる
実習スペースの確保が困難	1	着付けスペースの不足

「カンガ、キルトを着装した感想」については、“一枚の布の無限の可能性”や、“人間の体は民族によって大差はないため衣服の類型化がみられるが、気候風土・歴史文化によって衣服の特色が生まれる”といった巻衣や民族服の本質に関わる指摘が3/4を占めた。また次点は、“これまで着たことのない衣服を着る楽しさ”といった、着装実習の楽しさを述べたものであった。

「着装授業の長所と短所」については、着装体験が衣生活の学習内容への興味や理解に繋がるといった指摘が3/4を占めた。また着方を考えることやグループワークで実施することが、発想力や表現力、コミュニケーション力を伸ばすなどの肯定的な意見が得られた。しかし実際の授業を想定した場合、教材（カンガ・キルト）の準備や、衣生活内容に費やせる時間のやりくりが難しいことなどの問題点が指摘された。

### (2) 山梨県立KJ高校での授業実践

本校では必修科目を「家庭総合」としている。「衣生活の科学と文化」の単元では「着装」「被服材料」「被服の構成」「被服製作」「被服整理」について科学的に理解させ、「衣生活の文化」に関心をもたせるとともに、必要な知識と技術を習得し安全と環境に配慮し、主体的に衣生活を営むことができるようにすることを目標としている。「人間と被服のかかわり」では人間の着衣動機の諸説、各地域の気候・風土に適応した被服、歴史的に被服が社会的な秩序を保つために利用されたことなどを取り上げ、被服の機能と着装、人間と被服とのかかわりについて考えさせると学習指導要領の解説に記されている。

本校の福祉生活科学系列では専門科目「服飾文化」を選択履修できるカリキュラムになっている。この科目は、服飾の変遷と文化、着装などに関する知識と技術を習得させ、服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てることを目標としている。「服飾の変遷と文化」の単元では被服の起源を取り上げ、被服の基本型について理解させることを目標とし、被服の起源や被服の基本型の代表的なものを取り上げ、着装形式の特徴、その土地の気候、風土、生活スタイル等の文化などのかわりについて理解させると学習指導要領に記されている。

そこで2019年前期の「服飾文化」の「被服の起源」の分野で「一枚の布」からなる民族衣装を教材として着装実習を行った。授業の目標は南半球にある東アフリカの「カンガ」と北半球にあるスコットランドの「キルト」の着装実習を行い、着装形式の特徴、気候、風土、文化と衣服との関わりを理解させ、「人はなぜ着るのか」について思いを巡らせることとした。この授業は2018年7月に実施された山梨県教育センターの研修を参考に構成し、教材は山梨大学岡松研究室から借用し、着装実習を行った。

まず、巻き衣形のカンガについての学習を行った。カンガは①東アフリカで着用されていること、②色鮮やかな綿素材であること、③縦110cm横150cmの長方形の1枚の布で、横幅は両手を広げた幅にあたること、④カンガを横長に用いると、胸から膝、あるいは腰から足首まで覆われ、縦長に用いると、首から足首までを覆うことが出来、衣服として適した大きさになっていること、⑤中央にことわざやメッセージがスワヒリ語で書かれていること、⑥男女兼用で、男性から女性（母・妻・恋人）へ、または同性同士では友情の証として贈ることなど説明した。

着装実習では1枚の布であるカンガを人体にフィットするように自由に体幹部に巻き付けたり、ショールのように首に巻き付けたり、ズボンのように足に巻き付けたり、帽子のように頭に巻き付ける等、高校生らしい自由な発想の着装がみられた。また着装しながら衣服の役割を考えさせ、自分の一番気に入った着装でファッションショーを行い、着こなしのポイントや着装した感想を発表させた。それぞれが異なる着装方法を工夫し、その発表を相互評価しながら、衣服の特徴や気候、風土、文化との関わりについて思考を深めていた。ベストドレッサー賞に選ばれた生徒（図3）は2枚のカンガを組み合わせ、紫外線や砂などから身を守るために頭にカンガを被るなど、気候風土に合った民族衣装であることを説明していた。また、カンガは色鮮やかで明るい模様が多く、生徒の着装意欲を喚起させた。さらに、スワヒリ語でメッセージが書かれていることにも生徒は興味を持ち、その文字が見えるような着装を行い、カンガの社会的な意味合いについても考えを巡らせていた。

次に気候風土の異なる地域の巻き衣であるキルトの着装実習を行った。こちらも一枚の布であるが、①スコットランドで着用されていること、②羊毛素材であること、③カンガに比べ重くて5～6mと長く、各家で異なるタータン模様が特徴的であること、④プリーツに折りたたみ、ひだを作って膝上10cmのスカートのように着用し、腰の部分をベルトや紐、ピンでとめて着用すること、⑤男性用の民族衣装であること等説明した。2名の男子生徒が代表して着装したが、その重さに戸惑い、さらにスカートのルーツが男性用の民族衣装であることに多くの生徒が驚いていた。

異なる地域の民族衣装の「一枚の布」を着用することで、被服は気候、風土、文化や生活スタイルと密接に関わっていることを体験的に学ぶことができた。被服の基本型である巻き衣を取り入れた着装実習は着装形式の特徴、気候、風土、文化などのかわりについて考えさせ、「被服の意義」や「被服の役割」について思考を深めることができる有効な教材であることが分かった。評価については「カンガ」「キルト」の着装実習の様子と振り返りシート【関心・意欲・態度】着装と発表内容（観察）【技能・表現】定期試験【知識・理解】で行った。



図2 カンガの着装の様子



図3 キルトの着装の様子



本時の目標 一枚の布（カンガ）を着よう！！	
<b>カンガの特徴</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（ ）で着用されている。</li> <li>・（ ）なデザインが施された（ ）の（ ）のこと。</li> <li>・特徴として中央にことわざや（ ）が書かれている。</li> <li>・まわりに縁取りがあり、中央には（ ）語の（ ）が書かれている。</li> <li>・素材は（ ）（ ）%、7大きさは縦（ ）cm、横（ ）cm 首から膝、あるいは（ ）から（ ）のつま先まで覆うのにちょうど良い。 横は（ ）を広げた幅にあたる。</li> <li>・（ ）共に着用。男性から母・妻・恋人へ、女性は友情の証として（ ）。</li> </ul>	
メッセージ Love your enemy（ ）・本来はスワヒリ語	
私の着こなし・チャームポイント	着装図
一枚の布を着た感想	ベストドレッサー賞 理由

3年組 番 氏名（ ）

図4 振り返りシート

振り返りシート（図4）では「一枚の布が服になることを知って驚いた。」「一枚の布でドレスや水着、スカート、ズボンができるなんて思わなかったのすごいいと思った。」「普段は縫製されている窄衣型の服を着ているので一枚の布を自分で考えて形を作ることが楽しかった。」「たった一枚で様々な着方ができて驚いた。発想が豊かだと思った。」「一枚の布を使うより、二枚の布を使う方がバリエーションがあり、工夫できる服装だと思った。」などの記述がみられた。

このように、被服の起源や被服の基本型の代表的な民族衣装を取り上げることにより、着形式の特徴、気候、風土、文化などのかかわりについて理解させるという目標をこの着実習によって達成できたと考えられる。

この単元では「人はなぜ着るのか」という命題を与え、人間と被服の関わりについて考えさせた。人間のみにもみられる衣服を着る行為を歴史的に知り、自然環境説（身体保護説・紐衣説）・社会生活説（特殊性説・呪術説・集団性説・装飾説）などについて考えながら、被服の役割について自然環境への適応を基に、社会的側面を重視しながら発展してきたことに気づかせた。さらに、応用問題として様々な気候風土に住む人々の民族衣装から衣服の基本形（巻き衣・筒型衣・前開き衣・貫頭衣・脚衣）を分類し、異なる衣服文化がなぜ今日のような窄衣形の洋服に発展したか考えさせていきたいと考えている。

今後は、必修科目「家庭総合」・「家庭基礎」での着実習の可能性を探りたいと考えている。

## IV まとめ

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領と教科書を用いて、着実習に関する内容を調査し、高等学校の生徒と家庭科教員に対し巻衣形の民族服であるカンガとキルトの着実習を行い、衣生活学習における効果と課題を明らかにした。

①小学校における着実習に関して、現在使用されている平成29年度告示の学習指導要領と平成31年検定済の教科書を分析した。小学校での着実習（着用）に関する内容は、児童が日頃から着ている日常衣について形や着方を振り返り、衣服の働きを踏まえて季節気候に合わせた着方を考える内容であった。

②中学校における着実習に関して、現在使用されている平成29年度告示の学習指導要領と令和02年検定済の教科書を分析した。中学校での着実習に関する内容は、衣服の働きとして「社会生活上の働き」を学び、「T.P.O.に合った着方」や「自分らしい着方」といった社会へ繋がる着実習が含まれたものであった。また日本の伝統的な衣生活を理解するために、浴衣の着実習が取り上げられていた。

③高等学校における着実習に関して、現在使用されている平成22年度告示の学習指導要領と現行の教科書（平成24年および28年検定）を分析した。高等学校での着実習に関する内容は、衣服の働きや和服と洋服の特徴といった小・中学校での学習内容を深めるものであった。また洋服や和服だけでなく、様々な地域の民族服が取り上げられており、衣服が風土や文化に関わりながら変遷してきたことを学ぶ内容もみられた。

④小学校においては日常着の着実習が中心であるが、和服（浴衣）も取り上げられており、中学校での浴衣の着実習に繋がっていることが見受けられた。同様に中学校では各種の民族服が紹介されており、高等学校の教科書においても、民族服の着実習に関する内容の含まれているものもあることから、着実習における和服→民族服への学習の広がりが考えられた。

⑤高等学校の家庭科教員を対象にした巻衣（カンガ・キルト）の着実習では、民族服の本質や着ることの意味に繋がる理解が得られたことが判明し、着実習に対する肯定的な意見が得られた。

一方、実際の授業を想定した場合、教材の準備や、衣生活内容に費やせる時間のやりくりが難しいことなどの問題点が指摘された。

⑥高等学校の授業において、巻衣（カンガ・キルト）の着装体験を実施した結果、生徒が積極的に参加し、様々な着装に工夫して取り組む様子がみられた。また着装姿のファッションショーを行い、その発表を相互評価しながら、衣服の特徴や気候、風土、文化との関りについて思考を深めさせることで、知識の定着や理解の深化に繋がった。被服の起源や被服の基本型の代表的な民族衣装を取り上げることにより、着装形式の特徴、気候、風土、文化などのかかわりについて理解させるという目標をこの着装実習によって達成できたと考えられた。

以上より、高等学校での民族服の着装体験は、小・中の学習を継続・発展させたものと位置づけられることが出来ると考えられた。また実際に巻衣の着装を行ったところ、学習内容の理解を深めることができ、体験的な授業を取り入れる意義が見出されたが、同時に時間やスペースの問題について検討する必要があることが判明した。また今後、高等学校家庭科の新しい教科書が出版されるため、それらを用いた最新の分析が必要であると考えられる。

<sup>1</sup> [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380902\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380902_1.pdf)  
(2021年9月1日閲覧) アクティブ・ラーニングについてはpp. 8-9を参照

<sup>2</sup> 長田美智子、岡松恵、丸茂佐智子「中学校被服製作実習の教材に関する研究」『服飾文化学会』12(1)、pp. 117-126、2011

<sup>3</sup> カンガは一枚1,000円程度、タータンは本場のものではないが類似品を一枚1,000円程度で入手できる(2021年9月1日調査)

<sup>4</sup> 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社、2018

<sup>5</sup> 注4、p. 101から抜粋

<sup>6</sup> 浜島京子・岡陽子他『新しい家庭5・6』東京書籍、2020(平成31年2月25日検定)、鳴海多恵子・石井克枝・堀内かおる他『わたしたちの家庭科5・6』開隆堂、2020(平成31年2月25日検定)

<sup>7</sup> 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編』開隆堂出版、2018、p. 153

<sup>8</sup> 注7、p. 150

<sup>9</sup> 注7、p. 154から抜粋

<sup>10</sup> 佐藤文子・志村結美・田口浩継他『新しい技術・家庭-家庭分野-自立と共生を目指して』東京書籍2021(令和2年2月10日検定)、伊藤葉子・河村美穂他『New技術・家庭家庭分野-暮らしを創造する-』教育図書、2021(令和2年2月10日検定)、大竹美登利他『技術・家庭[家庭分野]-生活の土台 自立と共生-』開隆堂、2021(令和2年2月10日検定)

<sup>11</sup> 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編』開隆堂出版、2010、p. 153

<sup>12</sup> カンガについては<https://www.youtube.com/watch?v=xw4FI-9rIYA>(2021年9月視聴)

キルトについては<https://www.youtube.com/watch?v=R71wNqcRn7k>(2021年9月視聴)を視聴した

<sup>13</sup> 織本知英子『カンガに魅せられて』連合出版、1998、pp. 13-14、p. 93

<sup>14</sup> 奥田実紀『図説タータンチェックの歴史』2013、pp. 9-12